

## 神奈川県松田町のボーリングデータ

今永 勇・山下浩之・高橋隆之

Isamu IMANAGA, Hiroyuki YAMASHITA & Takayuki TAKAHASHI:

Boring Data in Matsuda-cho, Kanagawa Prefecture

足柄平野から御殿場線の通る地形的に低い地帯を通り駿河湾にぬける線は、フィリピン海プレートが、北米プレート（あるいは、ユーラシアプレート）に衝突していると考えられている地域である。足柄平野の松田町の部分は、松田山と川音川と酒匂川に挟まれた三角形の地域である。この地域は大磯丘陵の西縁を画す国府津—松田断層の延長部分が丹沢山地・足柄山地の南縁部の松田山に突き当たり、さらに川音川断層（上杉他, 1981）が交差する地域にあたる。断層の輻輳した衝突するプレート境界の構造を知る上で重要な位置をしめ、構造について調べるに適した地域である。これまでに、山崎（1982, 1985）は松田山の南斜面の150 mから200 mの小丘陵の地質について報告し、小丘陵の南側の平野部を崖錐であるとした。小沢他（1982）は、松田駅のある川音川と酒匂川と足柄山地で囲まれた地域を山北面と推定している。今回検討した松田町のボーリングデータは、松田山南部に広がり、酒匂川と川音川に囲まれた平野のものである。この平野の一部分にローム層が分布していることがわかり、国府津—松田断層、神縄断層の構造について知る上で重要であると思われる。

足柄平野は、ひし形を長くした形をした沈降する平野と考えられている（山崎, 1985他）。国府津—松田断層を境に大磯丘陵側が隆起し、曽我山の山地をつくっている。国府津—松田断層の北西の延長部がどこを通るかについては定まった説がない。

足柄平野は、また扇状地性の平野だと言われている。松田付近は、川音川の扇状地と言われている。川音川の扇状地地形は、川音川の左岸の町屋、金手、河原、金子の高度70 mから40 mにかけての地域に扇状の特徴が良く表れている。しかし右岸の扇状地地形は、現川音川の沿岸付近に限られている。川音川の右岸の

大部分の地形は、後方の松田山の南斜面の等高線の概略の方向と一致してほぼ東西方向に延びており、南に緩く傾斜し、川音川の扇状地とは見られない。

松田の町の乗っている地域は、ローム層が分布している。ローム層の厚さが、ボーリング4から5、8へと薄くなる（図1）。このことから川音川の扇状地は徐々に東に流路を変えて行ったようにも見える。

川音川と酒匂川と足柄山地とで囲まれた地域には、山北面を構成する御殿場泥流堆積物が見られない。開成町の河原町のボーリング9で10 m以深に見られる噴出岩とされているものが、御殿場泥流堆積物であると推定される。

松田町東側の東名高速道路インターチェンジから金子台にかけての台地は、20~30 mの厚いローム層の下に、厚さ7~8 mの河成のオケ戸礫層が分布している（上杉他, 1974; 菊原, 1975）。ボーリング3では、30 mまでローム層があり、その下に火山灰が分布するように描かれている。このことから見ると、ボーリング3のある面は、オケ戸礫層堆積面か、あるいはより以前の地形面である可能性が考えられる。

ボーリング4、5は、上部にローム層あるいは表土が4~5 mあり、2~3 m厚の礫層を置いて下に腐食物・礫・凝灰質混じりの粘土層が分布している。このことから2~3 m厚の礫層が堆積する前までは後背湿地を形成していた可能性がある。

ボーリング6、7は、2~3 mの表土とローム層の下に12 m以深まで礫層が分布し、このボーリングの地点を含む地域は川音川の扇状地と思われる。

ボーリング1は、ボーリング2に近い位置にあるが後背湿地的な状況を示しており、周りの地形とも考え合わせると両ボーリング地点間に埋没した南北性の急な崖（断層?）の存在が推定される。あるいは惣領か

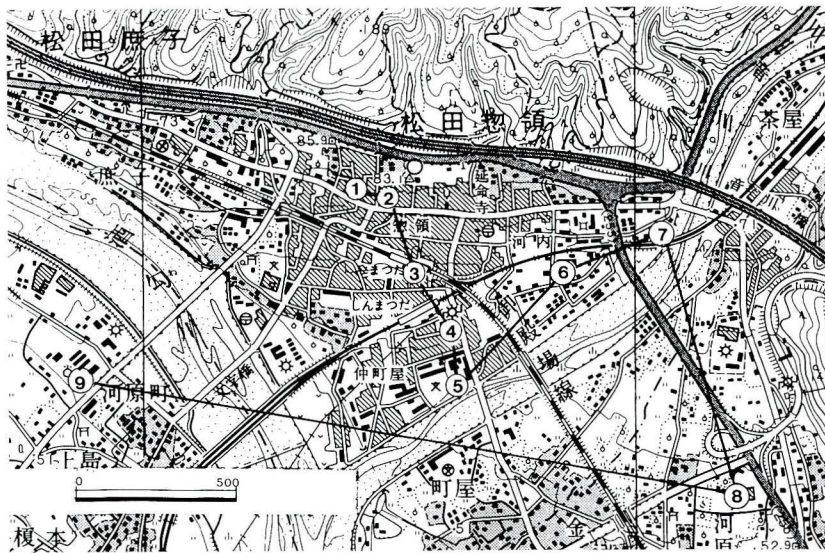


図1 松田町付近の地形とボーリング位置図

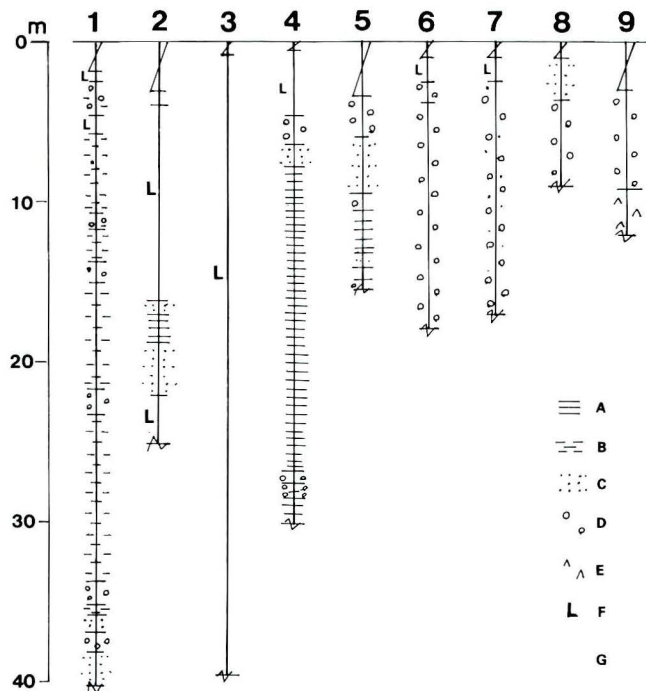


図2 松田町のボーリングデータ（神奈川建築士会より）

a : 粘土 b : シルト c : 砂 d : れき e : 火山碎屑物（噴出岩） f : ローム層・火山灰  
g : 埋土または表土

ら松田駅にかけての地域は、国府津—松田断層における千代の台地に対比されるような段丘のブロックである可能性もあり、今後さらにボーリングデータを集め検討する必要がある。

#### 文 献

- 関東第四紀研究会, 1987. 大磯丘陵の層序と構造. 関東の四紀, (13) : 3-46.  
神奈川県, 1971. 神奈川県地盤地質調査報告書.

小沢 清・荻野喜作・横山尚秀, 1982. 足柄平野の地質 (その1). 神奈川県温泉地学研究所報告, **13**: 83-90.

上杉 陽・米沢 宏・千葉達朗・狩野謙一, 1981. 川音川横すべり断層. 第四紀研究, **20**: 35-42.

山崎晴雄・垣見俊弘・加藤 完・池田喜代治・高橋 誠・永田松三・伊藤吉助, 1982. プレート北端部の造構運動の調査研究. フィリピン海プ

レート北端部の地震テクトニクスに関する特定総合研究中間報告書, 368-393. 科学技術庁研究調整局.

山崎晴雄, 1985. 足柄平野の地質と地殻変動. 月刊地球, **7**: 466-477.

(今永勇: 神奈川県立博物館, 山下浩之・高橋隆之: 横浜国立大学)